

令和 6 年 9 月 18 日現在

機関番号：37407

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10460

研究課題名(和文) ICD-11記載の経脈病証の再構築および経穴の使用頻度、経絡現象に関する研究

研究課題名(英文) Research on reconstruction of meridian disease evidence listed in ICD-11, frequency of use of acupuncture points, and meridian phenomena

研究代表者

篠原 昭二 (SHINOHARA, SHOJI)

九州看護福祉大学・看護福祉学部・教授

研究者番号：50141510

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：2022-2023年度の研究活動は、ICD 11に記載された東洋医学の経脈病証について明らかにすることであり、これまで埋もれてきた貴重な伝承知識である医学古典の「黄帝明堂経輯校」に記述された主治症から、(1)経脈の流注を元にした流注関連病証、(2)経筋病証(運動器系愁訴)、(3)臓腑関連病証、(4)精神(情動関連)症状に4区分する新たな分類法にしたがって整理するとともに、日常鍼灸臨床における経穴の使用頻度調査、鍼灸臨床家の経脈病証に関する臨床知の集約などを、羅列された記述から、一定の内容に分類した上で整理する作業を通して網羅した調査研究である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の経脈病証は、現代の鍼灸臨床の実情に即したものとはいえず、記述内容もバラバラであった。そこで、(1)経脈の流注を元にした流注関連病証、(2)経筋病証(運動器系愁訴)、(3)臓腑関連病証、(4)精神(情動関連)症状に4区分する新たな分類法にしたがって整理するとともに、医学古典における文献知、日常鍼灸臨床における臨床知、さらには経穴の使用頻度調査結果を集約したものである。したがって、当該領域の研究において貴重な研究資料として活用いただけるものであると自負している。

研究成果の概要(英文)：The research activities in 2022-2023 will be to clarify the meridian disease evidence of Oriental medicine listed in ICD-11, and to clarify the medical classic "Yellow Emperor Mingdo Sutra", which is valuable traditional knowledge that has been buried until now. From the main symptoms described in the school, (1) evidence of infusion-related disease based on meridian infusion, (2) evidence of transmuscular disease (musculoskeletal complaints), (3) evidence of visceral-related disease, (4) Organized according to a new classification method that divides mental (emotion-related) symptoms into four categories, as well as surveying the frequency of use of acupuncture points in daily acupuncture clinical practice, and collecting clinical knowledge of acupuncturist clinicians regarding meridian pathology. This is a comprehensive research study that involves classifying and organizing the written descriptions into certain categories.

研究分野：鍼灸学

キーワード：ICD-11 経脈病証 経脈流注関連病証 経筋病証 臓腑関連病証 伝統鍼灸における精神症状 経穴の主治病症 経穴の使用頻度

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景及び研究課題の核心をなす学術的問題は、2019年5月にWHOの国際疾病分類第11版(ICD-11)に伝統医学の章が新たに加わり、日本の鍼灸学が重視する「経脈病証」(精神的および身体的な愁訴を経絡の虚実として診断し治療する代表的な病証概念)も収録されることとなった。しかし、その内容は『靈枢』経脈篇第十の内容の枠組みから発展すること無く、歴史的、臨床的、科学的な検証は行なわれていないばかりか、実地臨床とも乖離する部分が少なくない。そこで、日本の鍼灸臨床に即した形で経脈病証を確立することが喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、

(研究) 臨床の現場で使用される経穴の使用頻度に関する実態を明らかにすること。

(研究) 「ICD-11に収載されるべき現代に生かせるリーズナブルな経脈病証とは何か？」について明らかにすること。

(研究) 医古文文献(素問、靈枢など)には、経穴の主治(どんな愁訴に応用されてきたか)が記述されている。そこで、医学古典文献の中でも代表的な『黄帝明堂経輯校』に注目して、研究代表者が提唱する(1)経脈の流注関連病証、(2)経筋病証(運動器系愁訴)、(3)臓腑関連病証、(4)精神(情動関連)症状に4区分する新たな分類法にしたがって分類整理すること。

(研究) 臨床症例をもとにして、「経絡現象に関する研究」を行うことであった。しかし、研究①～③だけで膨大な内容であったこと及び、臨床症例は、個々の病態把握や治療方式が統一できないことから、今回は断念することとした。

3. 研究の方法

(研究) : 本邦における鍼灸臨床の代表的な業団である日本鍼灸師会に加入している鍼灸臨床家(4800名)を対象として、361個の経穴の鍼及び灸治療における使用頻度についてアンケート形式で調査(全数調査)を実施した。

(研究) : 『靈枢(経脈篇第十)』に記述された病証および『針灸学(上海中医学院編)』における経脈病証を整理するとともに、われわれの臨床経験に基づく病症(臨床知)も追加するとともに、これらの病症を研究代表者らが提唱する(1)経脈の流注関連病証、(2)経筋病証(運動器系愁訴)、(3)臓腑関連病証、(4)精神(情動関連)症状に4区分する新たな分類法に準拠して整理した上で、経絡治療学会及び伝統鍼灸学会会員を対象としてアンケート形式により調査を行うことによって、実態を明らかにすることを企図した。なお、一次調査を通して平均的な病証群の整理を行い、さらに伝統鍼灸学会会員及び関連団体に所属する専門家集団に対して二次調査(デルファイ法)を行なってその精度を高めるよう配慮した。

(研究) : 医古文文献(素問、靈枢など)には、経穴の主治(どんな愁訴に応用されてきたか)が記述されている。そこで、医学古典文献の中でも代表的な『黄帝明堂経輯校』を取り上げ、12経脈の五行穴(五俞穴)、絡穴、郄穴、原穴といった要穴に注目して、研究代表者が提唱する(1)経脈の流注関連病証、(2)経筋病証(運動器系愁訴)、(3)臓腑関連病証、(4)精神(情動関連)症状に4区分する新たな分類法にしたがって経脈病証を整理するという新たな試みを実践した。

4. 研究成果

(研究) : 日本鍼灸師会会員を対象とし、広報誌郵送時にアンケート用紙及び返信用封筒を同封して、361経穴(正穴)についてのアンケート調査を実施した。調査期間は、2019年11月から2020年6月末日までとし、使用頻度は、8割以上に使用「5」、5割以上に使用「4」、3割程度使用「3」、たまに使用「2」、1度も使用したことがない「1」とした。

発送総数は 4,613 部、回収数は 173 通（回収率：3.75%）有効回答数 169 通であった。男性：129 名、女性：39 名、平均年齢±標準偏差：58.3±13.3 歳、臨床歴±標準偏差：27.8±13.4 年であった。回答者の治療方式は、現代的鍼灸 57.8%、中医鍼灸 13.0%、経絡治療 26.6%、記載なし 2.6%であった。169 通の調査結果における使用頻度の平均値と sd 値を求めた。

なお、詳細な結果については、別に報告書として作成した。なお、鍼治療における経穴の使用頻度は、8 割以上に使用する経穴はなく、5 割以上に使用する経穴が 4 穴（但し、平均 4.5 未満-3.5 以上とすれば 1 4 穴となる）、3 割程度使用する穴が 3 7 穴（但し、平均 3.5 未満-2.5 以上とすると 6 0 穴となる）、たまに使用するとする穴は 2 7 0 穴（但し、平均 2.5 未満-1.5 以上とすれば 2 3 7 穴）であった。そして、一度も使用したことがないとする穴（平均 1.4 以下）は 5 0 穴であった。

灸治療における経穴の使用頻度は、8 割以上および 5 割以上に使用する経穴はなく、3 割程度使用する穴が 2 穴（但し、平均 3.5 未満-2.5 以上とすると 9 穴となる）、たまに使用するとする穴は 1 2 2 穴（但し、平均 2.5 未満-1.5 以上とすれば 1 1 0 穴）であった。そして、一度も使用したことがないとする穴（平均 1.4 以下）は 2 3 7 穴であった。

（研究）：ICD-11 で採択された経脈病証は『靈枢』経脈篇の内容の踏襲であるため、今から約 2 千年前の病症であり、臨床的、科学的等の面からの検証は行なわれおらず、部分的に活用できていても現在の鍼灸臨床との乖離が大きいところもあり、課題となっている。そこで、『黄帝内経靈枢』（『靈枢』）、『黄帝内経素問』（『素問』）、『難経』、上海中医学院編『針灸学』を参考に十二経脈に関連する病症を整理するとともに、研究者らの個人的な臨床知に照らして重要と思われる病症を適宜追加して独自に調査票を作成した。整理した 1 2 経脈の病症の項目数は 476 項目となった。また、本調査票においては、研究者らが提唱する（1）経脈の流注関連病証、（2）経筋病証（運動器系愁訴）、（3）臓腑関連病証、（4）精神（情動関連）症状に 4 区分する新たな分類法にしたがって分類した。

調査対象は日本伝統鍼灸学会会員、経絡治療学会会員などとした。

調査期間は 2021 年 12 月から 2022 年 2 月までとした。調査手順は郵送法により対象者の年齢や臨床歴、鍼灸診療方式などを基本情報として尋ねた。なお調査への同意は調査票の返答とした。対象者に日常の鍼灸臨床において十二経脈の症状が現れる頻度を尋ねた。病症の出現頻度を 6 段階（非常に多い（5 点）、多い（4 点）、時々（3 点）、滅多にない（2 点）、ない（1 点）、不明・わからない（0 点））の選択とした。分析は出現頻度を用いて集計し、臨床上で「時々（ある）」（3 点）以上を経脈病証の症状であると評価し、採用症状とした。

日本伝統鍼灸学会に加盟する関連研究団体（経絡治療学会などの 1 3 団体）に所属する鍼灸臨床家（約 400 名）を対象とした。

一次調査の結果を得て、そのデータを伝統鍼灸学会に属する関連団体のメンバー（専門家集団）に送付して、デルファイ法による 2 次調査を実施することによって、より精度の高い経脈病証に関する項目調査を実施した。

（研究）：小林健二氏が作成した経穴主治に関するデータベースを基として、「黄帝明堂経輯校」の記述から 1 2 経脈の五俞穴（井、滎、兪、経、合穴）および絡穴、郄穴、原穴に注目してそれぞれの主治を先の研究者らが提唱する（1）経脈の流注関連病証、（2）経筋病証（運動器系愁訴）、（3）臓腑関連病証、（4）精神（情動関連）症状に 4 区分する新たな分類法にしたがって分類した。全経穴ではなく手足の要穴、つまり、五行穴（五俞穴）および原穴、郄穴、絡穴とした。その理由は、五行穴（五俞穴）が臓腑・経絡の虚実や寒熱、虚実の治療に主として用いられていること。原穴は『靈枢』九鍼十二原篇に

において臓腑（経絡）の状態が原穴に反映されることが記述されていること、郄穴、絡穴共に臓腑・経絡の愁訴に用いられていること、さらに絡穴は臓腑と関連する経別の代表穴でもある。

そこで、12 経脈について『黄帝明堂経輯校』に収録された五俞穴および原穴、郄穴、絡穴の主治病症を4つの区分にしたがって整理した。なお、本研究の成果については、別に印刷資料として発刊した。

なお、今回の資料はいずれも鍼灸師養成施設において非常に重要なデータであることから、国内の鍼灸師養成施設及び関連学会、団体等へ郵送した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 篠原昭二	4. 巻 43
2. 論文標題 脾経の経脈病証構築の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中医臨床	6. 最初と最後の頁 130 - 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原昭二	4. 巻 43
2. 論文標題 経の経脈病証構築の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中医臨床	6. 最初と最後の頁 133 - 134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原昭二	4. 巻 43
2. 論文標題 小腸経の経脈病証構築の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中医臨床	6. 最初と最後の頁 150 - 153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原昭二	4. 巻 44
2. 論文標題 膀胱経の経脈病証構築の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中医臨床	6. 最初と最後の頁 142 - 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 篠原昭二、若山育郎、柳澤紘、山下仁、井田武人、金子聡一郎、高山真、南雲三枝子
2. 発表標題 医師・鍼灸師を対象にした経穴の使用頻度に関するアンケート調査結果
3. 学会等名 日本東洋医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 篠原昭二、内田匠治、斉藤宗則、和辻 直
2. 発表標題 鍼灸臨床における経穴の使用頻度調査
3. 学会等名 全日本鍼灸学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 篠原昭二、和辻直
2. 発表標題 鍼灸臨床における14経の経穴の使用頻度調査
3. 学会等名 日本統合医療学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内田匠治、篠原昭二、斉藤宗則、和辻 直
2. 発表標題 鍼灸臨床における経穴の使用頻度調査
3. 学会等名 全日本鍼灸学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	和辻 直 (watsuji Tadashi) (60220969)	明治国際医療大学・鍼灸学部・教授 (34318)	
研究分担者	斉藤 宗則 (Smith Munenori) (90399080)	鈴鹿医療科学大学・保健衛生学部・教授 (34104)	
研究分担者	内田 匠治 (Uchida Takuji) (90714585)	九州看護福祉大学・看護福祉学部・講師 (37407)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	斉藤 宗則 (Smith Munenori)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------